



慶應義塾大学ビジネス・スクール

小出郷文化会館

—文化活動と地域行政の関わり—

怒り

“水滴のように脆弱で儂い存在だった個々人の活動は、これを機にひとつの川の流れとな
って、この土地に豊かな恵みをもたらす事になる” 10

平成5年2月2日。その日開催された『文化会館懇談会』に参加した住民たちは凍りつい
た。「またハコか！」医師・庭山昌明は心の中で叫んだ。懇談会で発表されたのは民意や地
域をまったく無視した計画だった。 15

—小出町の干溝地内に文化会館を建設する。キャバは1200席、総工費35億円。—

これまで全国の文化会館を視察してきた櫻井俊幸は、ハードは立派であるが、運営はま
ったくうまくいっていない多くのホールをその目で見て来ていた。「町の提示した計画では、
小出郷に建設されようとしている文化会館も同じような憂き目に会うのではないか。住民
の意見をまったく聞くことなく、地域にふさわしいキャパシティも考慮されておらず、い
きなりこんな構想を打ち出すなんて。」と櫻井は心の中で思った。 20

「どうしたものか。」会合後、途方に暮れる若者たちの姿がフロアにあった。それぞれの
表情は暗かった。これまで積極的にまちづくりに参加してきた彼らは、今回の会合を楽し

本ケースは慶應義塾大学大学院経営管理研究科和田充夫教授の指導の下に、博士課程13期生の長尾雅信が作成
した。

本ケースは教材として準備されたものであり、特定の経営状況の巧拙を評価するものではない。

本ケースの作成に当っては小出郷文化会館館長櫻井俊幸氏をはじめ小出郷の皆様にも多大なる御尽力を頂いた。

ここに期して感謝したい。

(2004年11月)

本ノートは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先
は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-
564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp）。また、ケースの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。
慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、
スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わ
ない）による伝送は、これを禁ずる。